

CHAMBERS'S INFORMATION FOR THE PEOPLE の
 翻訳と永田健助訳『百科全書 家事儉約訓』

お茶の水女大 家政 谷口 彩子

目的 明治初期における翻訳家政書は、その後の家政教育・家政学研究に多大の影響を及ぼした出発点と考えられてきた。永田健助訳『家事儉約訓』は、翻訳家政書の第一号とされ、比較的早期より内容紹介がなされてきたにもかかわらず、その原著者、原書については未だ十分な解明はなされてはいない。そこで、原著者、原書に関する解明と、その刊行から翻訳に至るまでの経緯及び原書と訳書との比較研究を試みることを目的とした。

方法 文献法によった。主な資料として、永田健助訳『百科全書 家事儉約訓』（文部省、明治7年刊）、文部省訳『百科全書』（丸善版、明治16-18年）、Chambers's Information for the People, Philadelphia, Lippincott, 1867, 内閣文庫所蔵、を用いた。

結果 『百科全書』例言に見られる記述等をもとに、原書の調査を試みた結果、Chambers's Information for the People, を数種見出すことができたが、その中には『家事儉約訓』翻訳の約1年前に岩倉使節団によってアメリカから日本にもたらされた資料も含まれていた。同書がウィリアムとロバートという出版業を営むチェンバース兄弟によって、イギリスで初めて刊行されたのは1833年であり、以後世界各国で50年以上刊行されていることがわかった。『家事儉約訓』の原典Household Hintsの項が現れるのは、1856年刊行のNew edition以降であると考えられる。約100篇あるというので『百科全書』と名付けられたが、その最終篇が『家事儉約訓』であり、翻訳刊行されると、学校教育の中でも用いられた。文部省による百科事典翻訳は、大変な難事業であり、『家事儉約訓』においても、当時の日本人の生活とは大きくかけはなれた内容の翻訳の苦心が読み取れる。